

復活のないキリスト教なんて」



大坂太郎牧師

恋は奇跡。愛は意思。ファッションビル「ツカクイアタマをマルくする。学習塾「日本を休もう 鉄道会社」どれも印象的な「ピーですが、名「ピー」の中には商品名をそのまま入れたものも。その一つがフリープを入れない「コーピーなんて」。ちなみに私は入れない「派ですが、商品名は強烈に印象付けられています。

時にフリープを入れない「コーピー」以上に興ざめなものがありまます。それは 復活を信じないキリスト教です。どこが 興ざめなのでしょうか。まず言えるのは復活を信じないキリスト教はちっちゃい「とじこじ」です。復活を否定し、その価値を認めなければ私たちの理性は満足するかもしれませんが、神は私たちの脳内に入る大きさになつてしまいます。そんなアタマで骨抜きにされた神様とも呼べないものを信じるくらいなら、いっそ自分を信じたほうがましでしょう。

次に復活のないキリスト教には喜びがありません。私たちの罪のため死んでくださったイエス様を思って罪を悔いても、死からの勝利がないのですからせいぜい泣きつかれて終わり。骨折り損のくたびれも

うけです。

第三に復活のないキリスト教には希望がありません。神の養子「マハ・五直訳」になった私たちに与えられる 永遠のいのち」といつ相続財産は実子であるイエス様がまずお受けになつてごんごんという事実がなければ、空手形や「約束と変わりません。どつりてパウロ先生は言うはずです。もし、私たちがこの世にあつてキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です」(コリント一五・九)」と。

ですがその次の節には「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました」という力強いことばが続きます。これは事実の宣言です。しかしこの宣言を信じるかどうかはひとえに私たちの決断にかかっています。主の復活をすなおに信じるものは希望、喜び、そして神の偉大な力をその生活の中で体験できます。反対に主の偉大な力を自分のちっぽけな脳内に閉じ込め、単なるよい教えとしてキリスト 教」を奉ずるならその結果は哀れでみじめで残念です。さあ 主はよみがえられた「この言葉を歴代の聖徒たちと共に告白し、喜びと希望にあふれたイースターをみんなて祝おうではありませんか。主はよみがえられました。感謝、ハレルヤ！

